

解答

- 問一 1 イ 2 ウ
 娘が夢中になって書いているものは、子どもらしいわいのないもので、意外なものではないだろうと軽視する気持ち。
 A たとえ B まるで
 自分の好きな本の一節
 万年筆でノート一面に書くことで、他人の知らない世界中の様々な知識を表面化し、自力で手に入れたことを誇らしく感じている。
 作者の両親
 (例) 万年筆という高価で特別な道具で、漢字の練習などのような型にはまったものではなく、自由に自分の書きたいことやその時の自分の考えをどんどん文字にする行為が、非常に尊く、魅力的で、価値あるもの思えたから。
 自分が親のいない境遇に生まれたと仮定し、そこからどのように育ってきたかを自由に想像して書いた作品。
 自分の思い通りに、正確に書くことができたということ。
 C うろたえ〔た〕 D 呪い〔い〕
 ア ウ
- 問十二
 問十一
 問十
 問九
 問八
 問七
 問六
 問五
 問四
 問三
 問二
 問一
- 二
 (1) を (2) ○ (3) めしあがって
- 三
 問一 願いごとのほとんどはあっけなく叶わずに終わるということ。
 (1) 大切なところ (2) メタフォア
 ア
 できるだけ関連の薄い言葉でたとえる方が、強調され、イメージしやすく、読者の印象に残る良い比喩となるということ。
 1 エ 2 ウ 3 イ
 「出血」が採算のとれない犠牲を払うという比喩の意味ではなく、実際に血が出る意味で使われたということ。
 「わたしを」感動させ〔た〕
 A 火 B 舌
 ゴルフと赤ちゃんという遠いもの同士を結びつけた比喩の手本のようなもので、より容易にイメージができるようになったから。
- 四
 問一 (1) 流派・読破 (2) 歴訪・作法
 待望・大枚 (4) 陛下・平易
 問二 (1) (3) そうきばやし (2) (4) うわぜい